

最新技術で他社の一步先へ



現場で SiteVision を持つて歩くことでデータと実際の場所が繋がって、これから施工する場所の位置関係や最終イメージが視覚的に把握できるので、作業手順の効率化が図れます。

熊本県熊本市の建設会社・株式会社 裕建 様は、ドローンを使った起工測量から点群処理、3D 設計データ作成、そして MC・MG を使用した ICT 施工までをトータルで行っています。裕建様では、施工の企画に Trimble SiteVision をご使用いただいているとのことで、専務取締役 岩尾孝司様、ICT 事業部 部長 磯崎順平様に使用して約半年の感想をお聞きしました。

— 導入のきっかけを教えてください。

従来は平面図を使って工事関係者に説明していましたが、今は PC で 3 次元モデルを見るようになってきています。

SiteVision は PC モニター上でだけでなく、実際に現場でモデルを見せることができるので、最新技術で他社よりも一歩先に行くために導入しました。

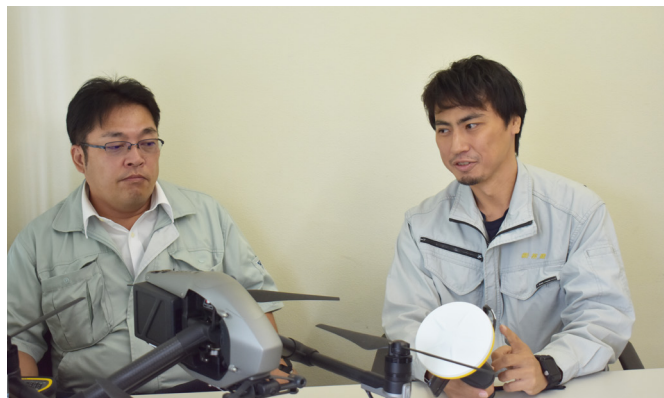
— 現在どのように使用されていますか？

現在は施工企画の段階で使用しています。事務所の PC モニター上で見せるよりも、実際に現場で 3 次元モデルを見せて説明する方が早く・間違いなく伝わります。

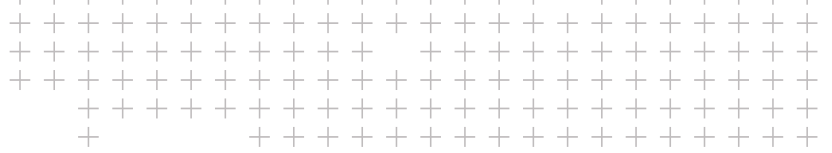
元請様や、実際に現場で施工する作業員の方たちへの説明時に活用しています。

— 実際に使用してみた効果はいかがでしたか？

実際に現場でデータを見せることで、PC 上でモデルだけを見るよりも明確なイメージを持っていただけますし、説明の時短になります。他社では「現地でもデータを見られます」というところが少なく、差別化できていると思います。元請様に現場で SiteVision を見せると、まずびっくりされますね。



▲ SiteVision について語る岩尾専務（左）、磯崎部長（右）



—従来と比較していかがですか？

従来は PC 上で点群に 3 次元設計図面を乗せて完成イメージを想像させていました。

元々図面を見てきた方には PC 上のビューワーの動画でも伝わるのですが、3 次元モデルを見慣れない方や現場で実際に施工作業をする方たちには、現場で SiteVision を使うと非常に伝わりが良いです。

現場で SiteVision を持って歩くことでデータと実際の場所が繋がって、これから施工する場所の位置関係や最終イメージが視覚的に把握できるので、作業手順の効率化が図れます。

—SiteVision 導入後、逆に大変になったことはありますか？

SiteVision の有無にかかわらず作る必要のある 3 次元データがそのまま活用できるので、作業負荷はあまり増えていません。従来の作業の流れの中で SiteVision のデータも作れますね。

—SiteVision を使った今後の展望について教えてください。

ICT の普及が今後一層進んで来るにつれて、3D 設計データやモデリングデータ作成の依頼も増えてきます。なので、今後は専属スタッフの育成と装備の拡充を図っていきたいです。

また他のツールと連携しながら、SiteVision を使いつてよりわかりやすく、また見える化をより役立てていけたらと考えています。



▲現場で SiteVision を見せながら作業の説明をされる磯崎部長



▲ SiteVision と空撮・測量用のドローン、Trimble TSC3

取材協力

株式会社 裕建

862-0912 熊本市東区錦ヶ丘 7-8 悠和ビル錦ヶ丘 2F

事業内容

土木一式工事、3DMG バックホウ・3DMC ブルドーザーによる ICT 施工、ドローンによる空撮・測量

お問い合わせ

※ Trimble 及び地球儀と三角のロゴは、米国 Trimble 社の登録商標です。

株式会社 ニコン・トリンブル

<https://www.nikon-trimble.co.jp/>

ジオスペーシャル事業部

〒144-0035 東京都大田区南蒲田 2-16-2 テクノポート大樹生命ビル

TEL (03) 3737-9411